

令和3年度

校長室だより7月号 No. 4

宝達志水町立押水第一小学校 R3.7.21

先月の6月号から3回シリーズで、学校教育目標について書かせていただいています。本校では目指す児童像を「考える 助け合う 思いやる子の育成」とし、それを実現するための教育目標を「自立と責任そして感動感謝」と設定しました。先月は、「自立」について記述しましたので、今回は「責任」についてお伝えいたします。

辞書的に言えば、責任とは「立場上、当然負わなければいけない任務や義務」とか「自分のした事の結果について責めを負うこと」となります。本校の児童には、「みんなのためにやりきる」と指導しています。学校生活は、一人では成り立ちません。学校の一員として、あるいは各学年の一員として、仲間のために学校生活を支えています。当然一人では支えきれませんので、学校のためになる仕事を分担して行います。自分の受け持った仕事を、みんなのために責任をもってやりきることを指して「責任」としています。「自立」については、1、2年生の低学年での定着を目指しているのと同様、「責任」については3、4年生での定着を目指して指導しています。



さて、本校での「責任」ある任務と言えば、日々の清掃活動、給食当番があります。給食当番は、まだ1年生は行っていませんが、いずれは1年生も給食当番をします。ですから、清掃活動、給食当番は、全校児童がその役割を何らかの形で分担します。

もし、一人の児童が与えられた役割を果たすことができなかつたらどうでしょうか。それは、一人の児童の仕事だけが未完成であるという問題ではなく、学校全体としての動きが完結できていない状況が生まれたこととなります。そうすると、誰かがその穴埋めをしなければいけなくなります。

清掃活動で言えば、一人の児童が掃除を怠けると、ゴミがひと山残っている状況が生まれ、それを誰かが片付けなければいけないのです。給食当番で言えば、完全に配膳されていない状況になっているので、誰かの給食が準備できていない状況になります。これも誰かの手に委ねられて好ましい状況になります。これらは決して「責任ある」状態ではありません。学校では、このような事例を示しながら「みんなのためにやりきる」ことの意味が理解できるようにしていきます。

また、今の子どもたちにとっては、自分の役割をしっかりとこなしていることは当たり前のように当たり前ではありません。ですから、ご家庭で、もしお子さんがゴミ捨てとかお買い物とかお遣いとか何かの役割を担っていて、きちんとやれている状態であれば、そのことをしっかりと認めてやり、うんと褒めてあげて欲しいのです。学校の指導の中では、そのことを含めて対応しています。そうすることによって子どもたちは、責任をもって自分の役割を果たすことの大切さに気づき、さらに「責任」を果たす満足感を得、そして「貢献」できる喜びへと徐々に変化していくように思うのです。

子どもたちの道徳性を育むことは、そう簡単にはいきません。ですが、学校と家庭、地域が連携することで今までできなかったことができるようになります。そういう意味でも、皆様方からの力添えを学校にいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

1学期をふり返って

7月19日（月） 全校集会にて

全校集会がありました。5年生の学年発表，環境委員会の発表，放送委員会のゲームを取り入れた発表があり，どの発表も工夫を凝らしてのものでした。また発表会場となった体育館は，この夏の猛暑の影響で30℃台の室温で，大型扇風機を稼働させても，とても暑くて厳しい環境の中での集会でした。それにも拘わらず，児童は集中力を欠くこともなく全員集中していました。ここ4か月間での成長した姿です。



また，3つの発表の中でも，特に5，6年生のプレゼンの仕方がよかったです。大型扇風機の音に負けないくらいのはっきりした声で発表していました。4か月の間，各学級での学習の成果が見られた瞬間でもありあました。どの児童も聞き手を意識し，分かりやすい言い方で，下級生のとてもよいお手本となりました。

全学年道徳科の研究授業



何度かご案内していますが，10月5日（火）道徳科の公開研究発表会を本校で開催します。本校の道徳科の授業を近隣の小中学校の先生方が見においでます。そのために1学期の間は研究授業を行いながらの校内研修会を何度も実施しました。我々教師側としては，どんな教材をどのようにしたら第一小学校の子どもたちの心を育てるのに一番いいかを真剣に考えています。時々暗礁に乗り上げることもあります，指導主事の先生のお知恵を借りながら，難しい局面を乗り切っています。

そんな研究を積み重ねていくうちに，子どもたちが少しずつ変化していきました。自分の思いや気持ちを人前で話すことに対するハードルが以前に比べて高くなってきたのです。道徳科は他の教科に比べてどの子にも発表できる機会があります。それぞれの学級担任は，道徳科のメリットを最大限に生かして子どもたちの表現力が高まるよう日々工夫しています。

道徳科については，月に一度，道徳だよりを発行しています。保護者の皆さんのお手元に届いていますので，ご家庭でも道徳科の話題で食卓に花を添えて頂けると光栄です。是非，お試してください。



1 学期の締め括り 終業式

7月20日（火）終業式を行いました。

今日は、熱中症対策のため体育館ではなくランチルームで行いました。

学校長からは、1学期の間にできたこと、できなかったこと、夏休み中も一番大切な自分自身の命を大切にしてほしいという内容の話をしました。



生徒指導主事からは、①不要不急の外出を控える ②行楽地では事故に気をつける ③インターネットの使い方について注意をする という3つのお話をしてしてもらいました。



コロナの影響で、例年の夏休みとは異なり制約されることも多くなりますが、ご家庭でもお子さんの様子を注視しつつ楽しい夏休みをお過ごしください。

また、今回、5年生が1学期の間、皆勤でありましたので、保健室の山崎先生から5年代表の南谷大和さんに表彰状が手渡されました。おめでとうございます。

避難訓練 真剣に取り組みました



1学期の間に2つの大きな避難訓練を行いました。

1つ目が、6月28日（月）の不審者対応の訓練です。6年教室に突然不審者が乱入して児童の引き渡しを要求したとの想定での訓練を行いました。

6年生学級担任は、素早く児童を避難させ、全学級に突然の出来事を瞬時に判断できるようにし、全校児童を安全な場所に誘導することができました。

体育館では、不審者役のお巡りさんからの誘いをどうやってかわし、逃げるかについての指導を受けました。実際の場面では、大声を意外と出せないことや不審者の服装は普通の服装であることなどの話を聞きました。

二つ目が、地震・津波を想定した避難訓練です。地震が発生した後に津波が来たとの想定で、第一次避難、二次避難ともに迅速に行動できました。



栽培活動も行いました



4年生は、イチゴの栽培に取り組みました。

4月、イチゴの畝にわらを敷きました。イチゴの苗が丈夫になりおいしいイチゴができることを祈りつつ、一生懸命お世話をしました。

5月中旬、赤いイチゴが一粒二粒なり始めました。ところがこの愛情かけたイチゴを狙っているライバルが現れ、なかなか自分たちの口に入りません。ネットを張ったり、イヌワシ君の見張りをつけたりしましたが、敵の方が一枚上手だったようです。ことごとく黒い敵にやられてしまいました。

それでも1人一粒は食べることができてよかったです。



1年生は、例年通りサツマイモを植えました。畑の先生堀さんの指導の下、丁寧にサツマイモの苗を秋の収穫をイメージしながら植えました。2年生も堀さんにおそわりながら夏野菜を植えました。きっと今年も豊作になるでしょう。

6年生は、光合成の実験がある関係で、ジャガイモを植えました。4月当初、どこへ行ってもジャガイモの種イモが売り切れて手に入らずで、やっと事務の先生の家にも男爵があると聞き、さっそく譲っていただきました。6年生にとってあきらめかけていた種イモが、思わぬところから手に入ったので一生懸命植えました。その甲斐あって、7月中旬には、大変豪華な芋料理に挑戦したと聞きます。とってもおいしかったです。理科との関連で、3年生はひまわり ホウセンカ等のお花を5年生はかぼちゃを植えました。

自学ノートの日 今年も健在

「毎週金曜日は、自学ノートの日です。」

このお決まりのフレーズを、毎週金曜日に給食の時間に上杉先生がおっしゃいます。木曜日の夜は、自学ノートを一生懸命仕上げている子どもたちの様子が浮かんできます。



今年度は、自学の日を毎週金曜日に設定し子どもたちの自学ノートを活用する力を育成しています。

1年生の参加はまだ先のことになりますが、きっと先輩たちから良い刺激を受けて積極的にチャレンジしてくるようになります。

どの学年もたくさんのベスト自学ノートが誕生しています。選ぶ側の方が毎週金曜日を楽しみしたくなるくらいベストノートが誕生します。2学期もとても楽しみにしています。